

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	北但広域療育センター 障害児(者)通所支援事業「トゥモロー」		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 26日		2025年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)
			1
○従業者評価実施期間	2025年 9月 18日		2025年 10月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)
			7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	PT・ST・保育士・相談支援専門員・看護師・介護福祉士など多職種が在籍しており、それぞれの専門性を活かした支援が可能。利用者の身体機能、コミュニケーション、健康管理、生活支援を多角的に評価し、チームとして連携しながら支援内容を検討・実施できる体制が整っている。	専門職の助言を日々の介助や活動へ落とし込み、一貫した支援ができるよう意識しています。	ケース会議の実施して内容の充実を図り、支援方針の共有をより丁寧に行っていきます。支援で気づいた点を職種を越えてフィードバックし合う仕組みを構築し、利用者一人ひとりへの支援の質の向上を目指します。
2	天井走行リフトを導入しており、安全な移乗と利用者の負担軽減を図ることができている。職員の身体的負担も少なくなり、安定した支援の継続につながっている。	<ul style="list-style-type: none"> リフト使用時の動作手順を職員間で統一し、安全確認を声かけしながら実施しています。 利用者の負担をできるだけ減らすよう、姿勢保持具の選定や調整を行っています。 職員の身体的負担を軽減することで、質の高い支援を安定して提供できるよう心がけています。 	職員への操作研修や危険予測トレーニングを定期的に行っています。リフト使用時の手順や声かけを統一し、誰が対応しても安心できる支援体制を継続して整備していきます。
3	1対1での支援を行うことが可能。一人ひとりのペースや特性に合わせた個別性の高い関わりができており、変化に気づきやすい環境が整っている。表情や身体反応など僅かなサインも丁寧に受け止め、安心して過ごせる支援体制が確保されています。	<ul style="list-style-type: none"> 僅かな表情・体の動き・姿勢の変化などを読み取り、意思の汲み取りにつなげることを意識しています。 利用者のペースを尊重し、急がせない・無理をさせない関わり方をしています。 安心感につながる声かけや触れ方、環境調整も個々に合わせて工夫しています。 	職員間での気づきの共有をさらに強化していきます。表情や身体反応などの変化を共通理解できるよう、ケース検討の時間を確保し、支援のばらつきを減らします。また、利用者の安心感につながる環境調整(光・音・姿勢)についても、専門職の助言を取り入れながら見直しを行い、より個別性の高い支援につなげていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ホール内にベッドなどの設備を配置しているため、個室での支援や緊急時の一時的な隔離対応、静かな個別スペースの確保が難しい状況。利用者が体調不良時や刺激を避けたい場面でも、十分なプライバシー確保が困難となる場合があり、環境面の整備に課題を感じる。	<ul style="list-style-type: none"> 施設の構造上、専用の個室や静養室を設けるスペースが十分に確保できていないこと。 想定される利用者数や障害特性に対し、静養・個別対応のための環境整備が後追いとなってきたこと。 限られた面積の中で安全性と動線確保を優先した配置となり、プライバシーへの配慮が十分に反映できていないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 可動式パーテーションやカーテン等を活用し、一時的に個別スペースを確保できる環境を整える。 ホール内のレイアウトを見直し、ベッド等の配置場所を工夫することで、静養用スペースの確保を検討する。 体調不良時やパニック時の対応手順を明文化し、職員間で統一した対応ができるようにする。
2	ご家族より送迎サービスの拡大について希望があるものの、職員配置基準や車両体制、医療的ケアが必要な利用者への対応に伴う看護師同乗体制の確保が困難であり、十分な送迎サービスの拡充が実現できていない。	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケアが必要な利用者に対応するための看護師の確保が困難であること。 安全確保を最優先しているため、現在の体制では送迎範囲や回数の拡大に限界があること。 安定的な運営体制の構築を優先してきた結果、送迎体制の拡充が後回しになっていたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 段階的な職員採用計画の検討や勤務体制の見直しを行い、送迎に対応できる人員体制の強化を図る。 看護師の確保に向けて、外部医療機関との連携や非常勤・派遣人材の活用を検討する。 送迎ルートや時間帯の効率化を図り、安全性を確保しながら対応可能な範囲を拡大する。
3			